誓いの言葉

人生の新たな節目を迎え、今日この「二十歳のつどい」の儀に立たせていただきますこと、誠に光栄に思います。本日はこのような盛大な門出の場を設けていただき、心より御礼申し上げます。ご臨席をいただいております宇陀市長金剛様をはじめとする御来賓の皆様、本つどいの開催にご尽力いただいた全ての皆様に、深甚なる感謝を申し上げます。

二十歳という節目を迎え、将来への期待に胸を膨らませるとともに、新たに背負う責任と義務の重みに、いささか不安も覚えます。これから社会の一員として新たな一歩を踏み出す中で、思うに任せないことや厳しい試練に直面することもあるかもしれません。しかし、アルベルト・アインシュタインの言葉に、*“You never fail until you stop trying.”*「挑戦し続けている限り失敗ではない。」という一節があります。この言葉のように、困難や挫折を恐れることなく、支えてくださっている周囲の方々への感謝と敬意を忘れず、挑戦し努力し続けたいと思います。

私たちが本日この場に立つことができたのは、家族、先生方、そして宇陀市の地域の皆様がこれまで多大なるご支援とあたたかなご指導をしてくださったおかげに他なりません。幼少期より私たちの成長を見守り、時に厳しく、時に優しく導いてくださった全ての方々に、心から感謝申し上げます。お世話になった方々への期待に応え、これからの人生において少しでも恩返しができるよう、そして自分自身が誰かの支えとなれるよう、社会の一員として一層成長してまいります。

私たちは、これまで支えてくださった皆様への感謝の念を胸に刻み、新たな人生の一歩を踏み出します。現在、それぞれの道を歩む私たちですが、これから出会う新しい人々や経験にも感謝し、一人一人が責任ある行動を心がけ、今後の社会を担う青年として、謙虚かつ力強く未来を切り開いてまいります。そして、社会の一員として誇りある人生を全うすべく、誠実に努めていくことを誓います。これをもって、令和七年二十歳のつどいの誓いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

令和七年一月十二日

山村 優太

大門 ゆう

稲岡 心音

岸本

飛伊斗